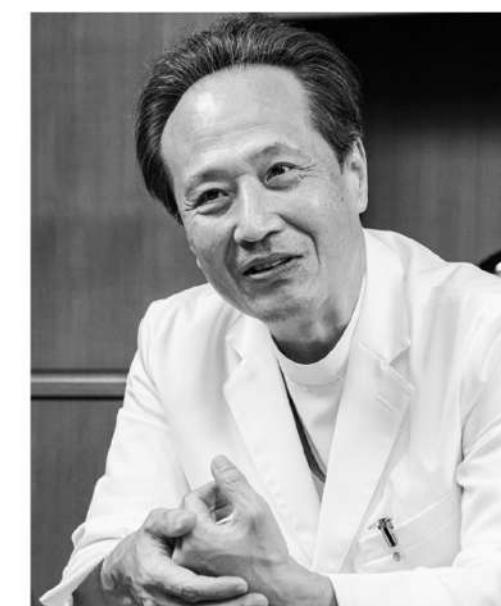


コロナ禍の医療危機をどう乗り越えていいのか 小池 薫・国立病院機構京都医療センター院長に聞く

小池 薫（こいけ・かおる） 独立行政法人国立病院機構京都医療センター院長

1957年神戸市生まれ。慶應義塾大学医学部卒。米コロナ大学客員研究員などを経て日本医科大学大救急医学教室助手・講師、東北大学大学院救急医学分野助教授、京都大学大学院教授・同医学部附属病院初期診療・救急科科長を経て2020年4月より現職。

新型コロナウイルスの感染拡大に歯止めがかかるら、首都圏に続いて大阪、京都、兵庫の関西圏3府県も緊急事態宣言の対象区域に追加された。医療崩壊が叫ばれているが、地域の中核病院はどのように対応しているのか。京都地域の高度急性期医療の役割を担っている独立行政法人国立病院機構京都医療センター（京都市伏見区）の小池薰・院長に聞いた。【池田知隆】



小池 薫 京都医療センター院長 【撮影 北田研策】

医療崩壊にはさまざま段階があります。当院では昨年11月までは、使命感の強い内科や外科の有志の医師が、自分が所属する診療科の業務を行いつつ、コロナ診療を行っていました。しかし先月後半に感染爆発が起これ、コロナ患者さんに対応する医師の不足が明らかになりました。そこで医師になって3年から5年目の若手医師全員に対して、コロナ診療に参加してくださいと半強制的な指示を出しました。苦渋の決断でした。これらの若手医師が所属する診療科の医療はおろそかにならざるをえませんので、このとき医療崩壊の第1段階に入ったといえます。

いまではさらに進んで、内科系外科系の全診療科の医師に応援要請を広げたので、医療崩壊の第2段階に突入したと判断します。しかし、入院時にPCR検査で「陰性」だった患者さんでも、その後コロナ感染者と判明する場合があるので、コロナを完全に防御するのはなかなか難しいと半強制的に指示を出しました。苦渋の決断でした。これらの若手医師が所属する診療科の医療はおろそかにならざるをえませんので、このとき医療崩壊の第1段階に入ったといえます。

医療崩壊にはさまざまな状況で、10病院に問い合わせをしてやっと救急車の受け入れ先が決まるという事例も増えています。現在のベースで感染が拡大していくれば、助かる命が助からなくなるという強い危機感があります。

——すでに医療崩壊が起きていますね。

医療崩壊にはさまざまな状況で、10病院に問い合わせをしてやっと救急車の受け入れ先が決まるという事例も増えています。現在のベースで感染が拡大していくければ、助かる命が助からなくなるという強い危機感があります。

——いま、新型コロナに罹患して亡くなるだけではなく、「コロナ関連死」が多いともいわれています。

いた患者さんが、その後コロナ陽性であることがわかり、大変でした。治療にあたった医師や看護師、他の患者さんにもPCR検査を行い、医師と看護師は濃厚接触者として、全員2週間の自宅待機となりました。その病棟には他の病棟の看護師さんが応援に行きましたが、看護師さんは慣れない専門外のケアを受けて入れられず、しばらくマヒ状態となりました。

病院ではスタッフ全員が絶対にクラスターを起こしてはならぬという強い決意で対応しています。しかし、入院時にPCR検査で「陰性」だった患者さんでも、その後コロナ感染者と判明する場合があるので、コロナを完全に防御するのはなかなか難しいと半強制的に指示を出しました。苦渋の決断でした。これらの若手医師が所属する診療科の医療はおろそかにならざるをえませんので、このとき医療崩壊の第1段階に入ったといえます。

医療崩壊にはさまざまな状況で、10病院に問い合わせをしてやっと救急車の受け入れ先が決まるとい

う事例も増えています。現在のベースで感染が拡大していくければ、助かる命が助からなくなるという強い危機感があります。

——今回の京都を含めた対象区域の拡大をどのように受け止められていますか。

とにかく、よかったですですね。コロナの患者さんが急増していくので、医療従事者の立場から言えば、もっと早く対象区域に指定されてもよかったです。しかし、コロナ禍で多くの人の生活のことなど考えなくてならない政府の総合判断ですから、致し方ない面があることも理解します。

コロナ禍で医師も看護師もみんなアップアップしながら、ギリギリの状態で病院をまわしています。病棟（40床）ひとつを開鎖して新型コロナ患者さんを受け入れていますが、現在（21日）、重症3床、中等症以下のベッドはフル稼動の状態です。このほか新型コロナが疑わしい患者さんも受け入れています。重症呼吸不全の方にはECMO（エクモ、体外式膜型人工肺）を用いた治療を提供していますが、ECMOは人手が非常にかかるので、他の患者さんの診療が手薄になります。当院は重症が悪化した他病院のコロナ患者さんも受け入れています。また当院は救命救急センターです。そこで、コロナ以外の重症患者の治療にあたることも求められています。しかし、残念ながら、入院できるベッドがなかなか入り手が足りないために、救急車から急救患者さんの搬送依頼があつても、現在すでに10件のうち件はお断りしている状況です。京都市内の中核病院は

——京都医療センターの現状はどうですか。

コロナ禍で医師も看護師もみんなアップアップしながら、ギリギリの状態で病院をまわしています。病棟（40床）ひとつを開鎖して新型コロナ患者さんを受け入れていますが、現在（21日）、重症3床、中等症以下のベッドはフル稼動の状態です。このほか新型コロナが疑わしい患者さんも受け入れています。重症呼吸不全の方にはECMO（エクモ、体外式膜型人工肺）を用いた治療を提供していますが、ECMOは人手が非常にかかるので、他の患者さんの診療が手薄になります。当院は重症が悪化した他病院のコロナ患者さんも受け入れています。また当院は救命救急センターです。そこで、コロナ以外の重症患者の治療にあたることも求められています。しかし、残念ながら、入院できるベッドがなかなか入り手が足りないために、救急車から急救患者さんの搬送依頼があつても、現在すでに10件のうち件はお断りしている状況です。京都市内の中核病院は

——いま、困っているのは、実は新型コロナウイルスのクラスター（集団感染）が一番起こっている場所は病院です。今も近くの地域の中核病院でクラスターが発生しています。当院でも昨年8月、無症状で入院していま

す。このほか新型コロナが疑わしい患者さんも受け入れています。重症呼吸不全の方にはECMO（エクモ、体外式膜型人工肺）を用いた治療を提供していますが、ECMOは人手が非常にかかるので、他の患者さんの診療が手薄になります。当院は重症が悪化した他病院のコロナ患者さんも受け入れています。また当院は救命救急センターです。そこで、コロナ以外の重症患者の治療にあたることも求められています。しかし、残念ながら、入院できるベッドがなかなか入り手が足りないために、救急車から急救患者さんの搬送依頼があつても、現在すでに10件のうち件はお断りしている状況です。京都市内の中核病院は

——いま、困っているのは、救急外来で運ばれた一般患者さんの感染対策は。

一般的な患者さんの診療を制限せず、病院などをコロナ診療に特化しましたが、このような対応が他の地域でも求められるかもしれないかもしれません。東京都では都立病院などをコロナ診療に特化しましたが、このような対応が一般的な患者さんの診療を制限せずに、病院への入室・面会を原則禁止しています。ご家族の方には申し訳ないのですが、特別の許可がなければ一切入院病棟に立ち入ることはできません。

——緊急事態宣言のもとで注意を呼びかけたいことは。

感染拡大を防ぐために、手洗いに加え、会話中のマスク着用を徹底することが大切です。マスクをはさむことで食事をする時は、近距離での会話をひかえます。隣りや向かいにすわって会話をした場合は感染リスクが高いです。

京都医療センターは40診療科をもつ高度総合医療施設。国から内分必・代謝疾患の高度専門医療施設（準ナショナルセンター）、成育医療の基幹医療施設、がん・循環器・感覺器・腎疾患の専門医療施設に指定され、医療協力の機能も付与されている。京都市で三次救急医療施設のうちの一つ。

発熱などの症状のある方はま

ず近くのかかりつけ医に電話相談するか、京都府の場合は「きようと新型コロナ医療相談センター」（365日24時間、京都市・京都市共通。電話075-414-5487）へ。

※小池 薫 京都医療センター院長への取材及び撮影はコロナウイルス感染対策を万全にして行いました。